

奈義町過疎地域持続的発展計画（案）に関するパブリックコメントの結果について

令和8年2月2日（月）から2月16日（月）にかけて実施した、奈義町過疎地域持続的発展計画（案）に関するパブリックコメントについて、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

皆様からいただいたご意見と、町の考え方を別紙のとおり公表いたします。

奈義町過疎地域持続的発展計画（案）に対するパブリックコメントの概要と町の考え方

No.	パブリックコメント意見	町の考え方
1	<p>空き家について、そのまま出てしまうより責任をもって処分するように指導してほしい。</p>	<p>町へのご意見と捉えさせていただきます。</p> <p>町では、空き家の活用及び流通を促進するとともに、空き家を原因とした住環境及び景観等の悪化を解消するため、空き家の購入、家財整理、除却に対して空き家対策事業補助金を交付しています。</p> <p>また、町が空き家を借受けして中間管理住宅に改修し、移住者等への受入れ環境の整備も取り組んでいます。</p>
2	<p>奈義町の英語教育の充実策を応援しています。</p> <p>昨今は都心部を中心に低学年教育が高騰しており、英会話教室に未就学児を通わせてもその教材費が40万円するような教室も珍しくありません。</p> <p>経済的に余裕のある家庭であれば可能な出資ですが、余裕のない家庭では選択肢が厳しくなります。</p> <p>奈義町の英語教育の充実は、子供たちにとって魅力的な学習環境の提供が第一目的だと思われませんが、同時に家庭の収入によらない学習格差へのケアとしても情報発信してはどうかと思います。</p> <p>備前市では事業縮小の判断をされたとニュースで聞いています。予算規模の妥当性や有効性の検証などは必要だと思われませんが、現代の教育投資、教育格差の文脈でとらえたときに奈義町の充実したALT教育は続けて頂きたいと感じ、賛同の意見表明いたします。</p>	<p>町へのご意見と捉えさせていただきます。</p> <p>国際化が急速に進展する中で、義務教育卒業までに国際理解力を育むため、公教育における英語指導の強化・充実を図る必要があると考えております。</p> <p>そのため、本町では、令和6年度から単に英語を教えるだけでなく、生きた英語・コミュニケーション力・国際感覚を育てていくため、こども園、小学校、中学校に合計12名のALT（英語指導助手）を配置し、授業に加えて日常的に英語に触れる機会を増やしています。</p> <p>また、日常から英語に触れることで、子どもたちが国際的な視野を広げたり、異文化に対する理解や関心を深めたりする機会にも繋がっています。</p> <p>引き続き、英語を話す力と国際感覚を育むことで、未来の社会で活躍できる力の育成に積極的に取り組んでいきます。</p>
3	<p>農林畜産物の第6次産業化について個人的な意見、要望を伝えたいと思いました。</p> <p>第6次産業化の参考にして欲しいのが、鳥取県八頭町にある大江ノ郷自然牧場です。</p> <p>大江ノ郷自然牧場も自然豊かな場所にありますが、山間部の道をいくと現代的な建物が目の前に現れて驚いた記憶があります。</p>	<p>町へのご意見と捉えさせていただきます。</p> <p>地域の魅力を「見える化」し、観光客に分かりやすく発信する拠点の存在は、第6次産業化を推進するうえで重要な要素であると認識しております。</p> <p>本町においては、特産品のPRや販売拠点として、「那岐山麓山の駅」と「なぎ高原山彩村」において取り組みを進めております。</p>

<p>観光客の記憶に残りやすいのも大事です（SNS映えとか）し、何より観光客が出入りしやすいと思います。</p> <p>また大江ノ郷自然牧場は鳥取産の小麦や卵を使った料理や土産が売られており、どれも魅力的に見えました。実際にレストラン等を利用したことがあります、すごく美味しいです。</p> <p>一方、奈義町にはさといもやなぎビーフなど魅力的なものがあるにも関わらず、まだ周知されていないように思います。津山市に住んでいた時期もありますが奈義町で有名な箇所はラ・ジータ以外、よく知りませんでした。奈義町の特産品を実際に食べることが可能な場所が少ないからだと考えます。</p> <p>以下、個人的な意見です。</p> <p>まず道の駅のような建物を建てて、観光客にそこに来ってもらうことが重要と考えます。</p> <p>道の駅（仮）ではなぎビーフコロッケのような特産品や、おやつのような軽食（カヌレとか）を食べることができるようにします。</p> <p>まずは食べてもらって、奈義町の魅力を知ってもらう。</p> <p>今の奈義町はどこに行けば何があるのかが分かりにくい（これも個人的な意見です）、ですので道の駅（仮）のような場所に土産物や軽食を食べることができる場所を集めたほうがいいように思います。</p> <p>現代美術館に来た観光客が、食べる場所を探している姿を見たことがあるので、是非とも道の駅のような建物を現代美術館近くに建てて欲しいです。</p>	<p>那岐山麓山の駅では、奈義町産の食材を活用した料理を提供しており、地域の味をその場で堪能していただくことが可能で、地元産品を「買う」だけでなく、「食べて体験する」機能も備えた施設として運営しています。</p> <p>一方、なぎ高原山彩村では、地元で採れた新鮮な野菜が販売されており、旬の味覚を気軽に購入できる場として運営しています。</p> <p>また、観光や地域情報の発信拠点としては、本町の中心部にあります「多世代交流広場ナギテラス」において取り組みを進めております。</p> <p>多世代交流ナギテラスでは、観光案内所を常設して各種イベント情報や観光情報の発信、来訪者への案内を行っております。ご意見の中にありました「どこに行けば何があるのかが分かりにくい」との点につきましては、町としても課題の一つと認識しており、既存施設の連携強化や情報発信の工夫、SNS等を活用した周知の充実により、より分かりやすく、訪れやすい仕組みづくりに取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>奈義町のさといもやなぎビーフなど、魅力ある地域資源をより多くの方に知っていただき、「まずは食べてもらう」機会を増やすことは大変重要であると考えております。今後とも、町内事業者と連携しながら、地域資源の高付加価値化と効果的な発信に努めていきます。</p>
--	---